

ロンドン・オリンピックー2

ボクはもう10年くらい宅配の新聞をとっていないから、何月何日に何が起こったか、についてはあまりよく覚えていない。若い頃なら自信があったが、今は今日あったことさえ忘れてしまう、というより覚えきれない。

で、時系列でいえば何が先にあったか、よくおぼえていないが、後半のオリンピックには久々に痛快な感じをうけた。

まずサッカーだろう。男女ともにベスト4に残ったのは日本だけである。とくになでしこ JAPAN に到っては、ベスト8の時点でブラジルとたたかうことになった。ブラジルの監督をして「正直な話、この時点で日本と当たりたくなかった」と言わしめたという。・・・正直なところ、昨年のワールドカップの優勝は、多分にフロックの可能性も高いと考えていたが、われわれが思っているよりも世界のサッカー界では、違った見方をしている。たとえば、パスまわしをさせないようにフォーメーションを工夫したり、堅牢な守備を破る工夫やここぞというときの集中力に対する対策を練ってきている。いずれも世界的にみても一流であり、各国の指導者たちは、仮想日本が敵である。そして、ブラジルの監督が危惧したとおり、なでしこ JAPAN は決勝まで勝ち進み、惜しくも米国に敗れはしたものの、前回よりも接戦だった。堂々の銀メダルである。

日本のマスメディアは、なんとかの一つ覚えのように何年ぶり、何十年ぶりといった表現が好きらしい。持っている語彙が少ないから、同じ表現しかできないのだろう。男子レスリングなど、石井庄八さん依頼、お家芸ともいわれ、メダルを量産した時代もあったが、各国のコーチ陣が不思議に思うほどメダルに関与できなかった。ボクシングにしても、たまたま「強い」選手が出現しただけのことである。

大金（すべて税金である！）を使っただけの惨敗の最大の原因は、人気だけ先行のバレーボールや出ると負けの柔道など、どこに金が注がれているのだろうか？日本の指導者層の「戦略眼の無さ」が如実に露呈した結果ではある。女子バレーでも選手の背中に「愛称」を書いたり、それほどの選手でもないじゃないか。

つまりは「人気先行」で、かつての「東洋の魔女」と呼ばれた選手たちとの待遇の差を考えれば、金の使い道を知らないのではないか。女子サッカーの選手たちが、遠征費にも事欠くようなアルバイトをしながら自腹を切って活躍したことを考えれば、特等席にふんぞり返っているような連中に勝てる要素が少ないのは道理ではないか。女子サッカーの選手たちが「お願いがある」。なんだといえば、遠征費をなんとか工面してくれませんか？・・・男子サッカーの選手はビジネスクラス、なでしこはエコノミークラス、など言わせてもらいます。「本末転倒」です。

その点、アーチェリー、フェンシング、バドミントン、卓球などのマイナーな競技にはわずかな金を惜しむかのように、自分の金でもないのに、偉そうに支給してやっている、くらいに思っているのではないか？

水泳にしても、湯水のごとく大金を消費し、さすがにアトランタのようなわけにもいかず、今回思わぬ選手の活躍もあってメダルを量産した。・・・スポーツはメダルをとるのが目的ではないが、これを目標に研鑽し、結果を残しての話である。それでも実績のない選手たちは、エコノミークラスの料金はもつが、ビジネスクラスに乗ろうとすると、その分、自分で負担しなければならない。ところが、メダルをとった瞬間から待遇が変わり、帰りはビジネスクラスだという。・・・陸連も水連もこせこせちまちました発想しかできない。さもし過ぎる。

最終日。レスリングとミドル級のボクシングで優勝した。それまでの精神的な重圧をはねのけ、技術的にも決しておとるものではなかつただけに、悼尾を飾るこの2選手の活躍は賞賛に値するものである。

水泳の鈴木だったか、「夏目雅子」に似ていると騒ぐが、あの筋肉と肩幅。夏目雅子など何かあったら抱きしめてやりたいような華奢なイメージがあるが、鈴木選手にそれをしたら、締めてつぶされてしまうぞ！

ボクらやっぱり見えて「華のある」「絵になる」選手が好きで、たとえばサッカーの澤や川澄、バレーボールの迫田とか。迫田など、あのバックアタックをみるだけで惚れ惚れするのだが、この選手が当落すれすれだったという。歴

代の監督の目が節穴だらけだったのが、よくわかる逸話である。

しかし、地味な脚光を浴び難い選手にも注目していますよ。いちいち書かないけれど。

さて「オリンピック」選手が帰日したあと、ロンドンでは「パラリンピック」大会が催されていた。初っ端、盲目の柔道選手が優勝した。その後も各種の競技で活躍をした。テニスなど、その練習から TV で放映していたが、その努力には敬意を表する。

ところで、政府はパラリンピックの選手にも補助金を出していると言うかもしれないが、明らかに一般の選手との「差別」は露骨である。たとえば、金メダルをとれば、一般の選手には 300 万円の報奨金がでる。ところがパラリンピックの選手には、100 万円であるという。その苦労を思えば、金額が逆だろう！聞くとところによれば、英国では、パラリンピックの選手の養成費が 3 億円というが、日本のそれは、わずかに 600 万円だという。このあたり、とてものことに「文明先進国」とは言い難い。しかも国会で、誰も問題にしないようだ。票につながらないからやろね。……日本人としては、恥ずかしい限りである。

2012.09.01.